

1 日時 平成24年〇月〇日 (〇)

2 学年・組 第2学年〇組

3 指導事項

(1) 話すこと・聞くこと

オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

イ (ア) 話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。

4 単元名 話し合って考えを広げよう ～パネルディスカッションをする～

5 言語活動

イ 社会生活の中的话题について、司会や提案者を立てて討論すること。

6 単元の評価規準と目指す生徒の具体的な姿

	国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
評価規準	広島土産を紹介することに関心を持ち、紹介のために進んで話題を集めて整理しようとしている。	修学旅行先で「広島NO. 1土産」を紹介するパネルディスカッションのねらいを理解し、自分の役割をふまえ、自他の発言の違いをとらえて自分の考えを広げている。	場や相手の立場を尊重した適切な話し言葉や書き言葉で表現している。
目指す生徒の具体的な姿	広島の地理、歴史、文化など紹介するためにふさわしい土産と、それを選んだ理由、根拠を広い視点から集めて、整理しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行先で「広島NO. 1土産」を紹介するパネルディスカッションのねらいを理解し、自分の役割をふまえ、積極的に話し合っている。 自他の発言の共通点や相違点を聞き分け、広島土産やそれを通しての広島の良さについて別の視点からとらえ直し、自分の考えを多角的に検討している。 	パネルディスカッションやプレゼンテーションなどにおける話し言葉（敬体）とグループ内での話し合いにおける話し言葉（常体）との違い、また、個人のメモと読み手を意識した書き言葉を使い分けて表現している。

7 単元について

○ 生徒の状況

本学級の生徒は、男子を中心に学習活動時には積極的に取り組み、発言も多い。一方、女子は全体の場では意見を出しにくい、小グループでは、自分の考えを述べてみようとしている。小グループでは、自分の考えを発言・交流することができるため、新たな視点をもつことができていると、考える生徒が比較的多い。

これまで、普段の授業における話し合いでは、①ペアで、②四人組で、③班（6～7人）で話し合う形のいずれかを経験してきた。しかし、依然意見をまとめていく場面では、意見と意見をつないだりして、よりよいものに練り上げていくというより、個人個人が出した意見の中で、最適なものを選んだら終わり、という状態である。意見交流の際、相手の立場を尊重した話し方（繰り返し「確かに〇〇ですね。要約「つまり〇〇ですね。」や、意見と意見をつなぐ話し方（「〇〇さんは～と言っていますが、私は～と思います。」など）を指導し、グループの中で多様な意見をつなぎ、最終的にはまとめていく話し合いを習得させたい。

○ 教材の価値

パネルディスカッションは、生徒たちにとって初めての活動である。自分の考える立場を相手に納得させる難しさや楽しさ、相手の考えを知り、自分の考えが変容、深化するおもしろさを理解させることができる教材である。

生徒たちは、2か月後に修学旅行で鹿児島を訪れ、民泊を体験する予定である。そこでのホストファミリーに広島の土産物やそれに関わる歴史や文化を語ることを通して、広島の良さを語るという活動を設定した。話題とする広島土産は、生徒がこれまでに見聞きしたり味わったりしたことがあるため、理由や反論などが考えやすい。根拠についても、言語・数理運用科のテキスト、身近にある本や雑誌、新聞記事などの資料や、自他の経験があるため、多様なカテゴリーから選ぶことができると考える。パネルディスカッションでの成果は、修学旅行のしおりにも掲載していきたい。

○ 指導の工夫

導入では、事前にアンケート調査を行うことにより、あらかじめ三つの名物（立場）をそれぞれ三つのグループに分けておく。また、実際のパネルディスカッションを撮影したビデオを見せ、今後の活動へのイメージを持たせたり、意見の深まりを実感させたりしてから、実際の活動に入るように設定する。根拠を考えさせる場面では、「おいしいから。」など主観的な理由で終わることがないように、最小限の資料とワークシートを準備する。同時に、アンケート調査の結果を利用して実態を把握したり、複数の文献などから分析したりするなど、具体的な取材方法を共通理解させることにする。

二次の話合いは、グループが提案する土産が説得力があるものになるように、説得力のある理由と根拠を作り上げる話合いである。この話合いにおいて、アリーナ方式を使いメタ認知をさせそれを相互評価することで、話合いの能力（全体の流れを意識する力、話し合うための雰囲気をつくる力、意見と意見をつなげる力、新たな視点はないか考える力）を育てたい。評価についてもできるだけ項目を一貫させ、話合いのたびに評価させる。

三次のパネルディスカッションでは、パネリストを多めにするなどして計12名の生徒に具体的な役割を与える。フロアの生徒についても、質問や反論を考えるなどさせて全員が高い意識を持って話合いに参加できるようにする。単元の最後には、自分の意見の広がりを生徒に自覚させるとともに、パネルディスカッションと単元全体の振り返りをさせて話合いの力を生徒に意識させる。

8 単元の学習と評価

次	時	学 習 活 動 (評価方法)	観 点		
			国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
0	0	自分が思いつく「広島お土産ベスト3」を事前アンケートに記入する。			
一	1	学習の目標と見通しを確認し、自分の考えを明確にする。 <ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッションという話合いの形式について理解する。 あらかじめ教師が用意した資料を使って、説得力のある根拠を選び、自分の考えを明確にさせる。 足りないところは、次回までにさらに自分で資料を用意する。 (ワークシートの記述)	○		○
二	2	自分が最も伝えたいことを決定し、情報を整理し、理由と根拠を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 根拠には、さまざまなカテゴリーがあることを知る。 各自が調べたことを持ちより、自分の考えをグループのメンバーに説明する。 (ワークシートの記述)		○	
	3	パネルディスカッションにむけて、説得力のある理由と根拠について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 理由を二つに絞り、さらに根拠も選ぶ。 根拠については、足りないカテゴリーを補足する。 同じ立場のペアの人で相互評価をする。 グループの意見をまとめる。 (話合いの様子の観察、ワークシートの記述)		○	
三	4	パネルディスカッションの準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> パネリスト（3立場×3人）、司会、書記、時計係などの役割を決めて、事前に打ち合わせをする。 質問、反論などの準備をする。 (話合いの様子の観察、ワークシートの記述)		○	
四	5	パネルディスカッションをし、考えを深める。 自己評価をし、話合いについての自分の学びを振り返る。 (行動の観察、ワークシートの記述)	○	○	

9 準備物

- ワークシート
- 付箋
- 題材の写真

1 0 本時の目標（話すこと・聞くこと 二次3時）

- パネルディスカッションにむけて、説得力のある理由と根拠について話し合う。

1 1 学習展開（話すこと・聞くこと 二次3時）

学習活動	指導上の工夫・留意点	評価規準・評価方法
1 学習目標を確認する。	○ それぞれが提示した理由や根拠の共通点や相違点をとらえ、広島土産について別の視点からとらえ直し、自分の考えを多角的に検討していくことを確認する。	
説得力のある理由と根拠について話し合おう。		
<p>2 説得力のある提案を作るため、二つの理由とその根拠を選ぶ。根拠については足りないカテゴリーを補足する。 (アリーナ方式)</p> <p>3 同じ立場のペアで、話合いの相互評価をする。</p> <p>4 提案のための説得力のある優れた意見をまとめる。</p>	<p>○ 条件（千円程度であること、広島の地理や歴史、文化について説明できるもの）を満たしているかどうか注意させる。</p> <p>○ 意見—根拠 の論理の適切さ（どれだけ多くの人々が深く納得するか）を判断し、足りないカテゴリーについては補足するよう、指示をする。 ・根拠のカテゴリー</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>①自分の体験 ②他人の体験 ③現在の事実 ④過去の事実</p> </div> <p>○ Aグループの発表を、Bグループ（個人の発言内容、活動に注目）とCグループ（全体の流れに注目）が役割分担して観察するよう、指示する。以下同様に、交替で観察し合う事を確認させる。</p> <p>○ 評価を受ける前に、話合いについての自己評価表を書く。自分の意見を多角的に検討し、学んだことを振り返らせる。</p> <p>○ C評価の手だてとして、一覧表を見直し、自分が考えていたこととどこが変わったかを書くよう、指示する。</p> <p>○ 受けた評価を頭に置きながら、その後、グループで意見をまとめていくよう、指示する。</p>	<p>○ 話合いの様子の観察</p> <p>○ ワークシートの記述</p> <p>A 説得力のある理由と根拠を提案するため、全てのカテゴリーの根拠をあげ、その妥当性について話し合っている。</p> <p>B 説得力のある理由と根拠を提案するため、全てのカテゴリーの根拠について話し合っている。</p>
5 本時の振り返りをし、学習のまとめをする。	○ アリーナ方式の話合いでよかったこと、（話合いの技能についてなど）気づいたことをまとめる。	

1 2 参考文献

- 都会生活プロジェクト編『広島ルール』中経出版
- 川上隆史『大学的 広島ガイド』昭和堂
- 岩中祥史編『広島学』新潮文庫
- 松井輝昭・池田昭子編『広島謎解き散歩』新人物往来社
- 川上有紀編『これでいいのか広島市』マイクロマガジン社
- 難波博孝・三原市立木原小学校『楽しく論理力が育つ国語科授業づくり』明治図書
- 富山哲也・三浦登志一編著『〈単元構想表〉でつくる！中学校新国語科授業STARTBOOK』明治図書